

プログラム	大野小学校 4 年生ふくし教育 (ふれあいいきいきサロンとの交流)		
実施者	佐世保市社会福祉協議会、佐世保市立大野小学校 4 年生 114 名		
関係機関	佐世保市視覚障害者協会、ふれあいいきいきサロン 4 か所、ユニバーサルライフ研究会、大野地区コミュニティセンター、株式会社エレナフォールディングス		
実施期間	令和 7 年 9 月 3 日 ~ 令和 8 年 1 月 13 日	科目等	総合的な学習の時間 (56 コマ ※1 コマ 45 分間)
事例の概要	自分と友達や地域に住む自分の周りの人々（障がいのある人、高齢者等）との「同じ」と「違い」を知り、体験や交流を通じて学びを深め、共に生きるためにできることを考える。	事業費	12,500 円
実施した背景	交流・体験の中で誰もが安心して暮らせるまちなすのために必要なことや、自分にできることを考え、思いやりや助け合いの気持ちを育むことを目的とした。	目的の達成状況	講話や体験・交流活動を通じて、高齢者や障がいのある人について理解を深め、相手の立場に立って考えようとする意識や、自分にできる関わりについて考える姿が見られた。
発案者	<input checked="" type="checkbox"/> 社協 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 <input type="checkbox"/> その他 ()	発案時期	令和 7 年 7 月 ~ 8 月頃
関係者	社協 <u>1</u> 人 学校 <u>4</u> 人 行政 <u>2</u> 人 施設 <u>3</u> 人 その他 (地域住民) <u>60</u> 人 (生活支援コーディネーター) <u>2</u> 人	協議時期	令和 7 年 7 月 ~ 8 月頃
導入準備	①期間 令和 7 年 7 月 ~ 令和 7 年 8 月 ②関わった人 <u>5</u> 人 <input checked="" type="checkbox"/> 社協 <input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 施設 <input type="checkbox"/> その他 () ※詳しい情報は、こちらから 佐世保市社会福祉協議会・大野小学校 (導入準備)		
導入 (概要)	「ふくし」の意味や身近な生活との関わりについて考え、高齢者や障がいのある人の暮らしに目を向ける学習を行った。 日常生活の中にある困りごとや助け合いについて話し合い、ふれあいいきいきサロンとの交流に向けて、高齢者と一緒に楽しめる遊びを考える活動を行い、相手の立場に立って関わろうとする意識を育んだ。 ※詳しい情報は、こちらから 佐世保市社会福祉協議会・大野小学校 (導入)		
実践 (概要)	事前学習として、「ふくし」や年をとることでの体の変化・特徴などの学習を行い、子どもたちが中心となって、「高齢者の方に合わせた交流をどのように進めるか」「どのような交流が一緒になって楽しめるか」を考え、ふれあいいきいきサロンを訪問し、子どもたちが考えた遊びや活動を通じて高齢者との交流を行った。 ※詳しい情報は、こちらから 佐世保市社会福祉協議会・大野小学校 (実践)		
所感 (概要)	活動を通じて、相手にわかりやすく伝えたり、様子に合わせて関わり方を工夫したりする姿が見られ、高齢者と関わる楽しさや大切さを実感し、お互いに笑顔で過ごす温かな交流の場となった。 ※詳しい所感は、こちらから 佐世保市社会福祉協議会・大野小学校 (所感)		
リンク	Instagram(https://www.instagram.com/p/DRTj9SmkUyq/?img_index=1) 佐世保市社会福祉協議会・大野小学校 (リンク) ※HP や広報誌等事例の参考になるもの。		

大野小学校 4年生ふくし教育（導入準備）＜佐世保市社会福祉協議会＞
（ふれあいいきいきサロンとの交流）

①期間 令和7年7月 ～ 令和8年1月

②関わった人 5 人 社協 学校 行政 施設
 その他（ ）

③導入準備内容・スケジュール

時期	項目	内容
R7.7月	学校より連絡	学校よりふくし教育の依頼
	打合せ（担任の先生、社協）	担任の先生の要望確認、内容決め
R7.8月	実施内容の決定	実施計画書（プログラム）の作成、学校と共有

④実施計画

- 展開概要
- ①ふくしについて
 - ②高齢者について
 - ③地域の高齢者との交流学習
 - ④障がい者について
 - ⑤ユニバーサルデザインについて
 - ⑥自分の暮らすまちについて
 - ⑦まとめ・ふりかえり

展開	ねらい	時期等	学習内容と方法	協力者等
①	「ふくし」について基本的なことを理解し、これから学習することの意味や内容に関心をもつ。	9月 各クラス1コマ	◆ふくしについての講話 ・「ふくし」が特定の人ではなく「みんなのしあわせ」であることを理解してもらう。 ・自分と「同じ」と「違い」に気づき、お互いの違いを理解することの大切さを学ぶ。	社協
②	高齢者の身体の変化を知る。自分ができること、高齢者が生活しやすい地域づくりについて考える。	9月 各クラス1コマ	◆高齢者の身体の変化や生活についての講話 ◆感想・気づきの共有	社協
	体験を通して、介助する側と介助される側の両方の気持ちを理解する。	9月 各クラス1コマ	◆体験（高齢者疑似） ◆感想・気づきの共有	社協

展開	ねらい	時期等	学習内容と方法	協力者等
④	障がいについて学習を行い、次の講話・体験に向けて興味・関心を高める。	9月 各クラス1コマ	◆障がいについての講話 ◆まとめ・気づきの共有	社協
	視覚障がい者のできること・優れているところに着目し、「違い」と「同じ」を学ぶ。	10月 2コマ 4クラス合同	◆講話および体験 ・生い立ちや普段の生活の様子等についての講話。 ・質問や話を聞いて感じたことを発表する。 ◆まとめ・気づきの共有	外部講師 視覚障害者協会
③	地域で実施しているサロンに参加し高齢者等との交流を深める。	9月～10月 各クラス3コマ 程度	◆サロンとの交流プログラムを考える	学校
		10月 各クラス2コマ	◆サロンとの交流活動を行う	学校 サロン (4か所) 社協
④	体験を通して、介助する側と介助される側の両方の気持ちを理解する。	11月 各クラス1コマ	◆体験（アイマスク） ◆感想・気づきの共有	社協
		11月 各クラス1コマ	◆体験（車いす） ◆感想・気づきの共有	社協
	障がいがあっても活躍している方々がいることを知る。 障がいスポーツに興味関心をもつ。	11月 各クラス1コマ	◆障がい者スポーツボッチャ体験 ・今までの体験をふまえて、みんなで協力することの大切さについて考える	社協
⑤	バリアフリーの考え方や生活をサポートするためのユニバーサルデザインについて考える。	12月 2コマ 4クラス合同	◆バリアフリーとユニバーサルデザインについての講話 ・ユニバーサルデザインの考え方を学習し、誰もが暮らしやすいまちについて考える。	外部講師 ユニバーサルライフ研究会
⑥	これまでの学習を踏まえ、自分たちが暮らすまちをみて、誰もが暮らしやすいまちとはどういうものかを考える。	12月 各クラス2コマ	◆まちあるき ・通学路や地区コミュニティセンター、ショッピングセンターなどを歩き、バリアフリーやユニバーサルデザインを調査する。	社協
⑦	今までの学習をふりかえり、自分たちにできることを考える。	1月 各クラス2コマ	◆まとめと発表（授業参観） ・学習したことをふりかえり、自分が考えたことを発表し、気づきを共有する。	学校

大野小学校 4年生ふくし教育（導入・体験）＜佐世保市社会福祉協議会＞

①日時 令和 7 年 9 月～10 月

②場所 大野小学校

③関わった人 5 人

（ 社協 学校 行政 施設

その他（ _____ ）

④活用した機材・準備物

・ PC ・ スクリーン ・ プロジェクター ・ 高齢者疑似体験セット

⑤内容

- ・ 講話「ふくしを知る」
ふくしについての基礎、自分と「同じ」と「違い」に気づき、お互いの違いを理解することの大切さを学ぶ。
- ・ 講話「高齢者について」
高齢者の身体の変化や自分たちができること、高齢者が生活しやすい地域づくりについて考える。
- ・ 体験「高齢者疑似体験」
高齢者疑似体験を通して、介助する側、介助される側の両方の気持ちを理解する。
- ・ 講話「障がいについて」
- ・ 視覚障がい者の講話・体験
障がいについて学習し、人それぞれの「違い」と「同じ」を学ぶ。
生い立ちや普段の生活の様子等について聞き、できることや優れているところを知る。

プログラム	コマ数	内容
「ふくし」について	1	講話「ふくしについて」
「高齢者」について	2	講話「高齢者について」 体験「高齢者疑似体験」
「障がい者」について	3	講話「障がいについて」 視覚障がい者の講話・体験

大野小学校4年生ふくし教育（実践）＜佐世保市社会福祉協議会＞

①日時 令和7年9月～令和7年10月

②場所 大野小学校、大野地区ふれあいいきいきサロン4か所

③関わった人 67人

（ 社協 学校 行政 施設

その他（生活支援コーディネーター、大野地区ふれあいいきいきサロン参加者）

④活用した機材・準備物

特になし

⑤内容

プログラム	コマ数	内容
サロンとの交流 プログラムについて	3	サロンとの交流プログラムを考える
サロンとの交流	2	サロンとの交流活動を行う

【サロンとの交流プログラムを考える】

学校が主体となり、地域の高齢者との交流学习（ふれあいいきいきサロンとの交流）の事前準備を行った。

既に、令和7年度のふくし教育プログラム（導入・体験）を進める中で、高齢者についての講話や高齢者疑似体験、障がい者についての講話を行っており、年をとることでの身体の変化・特徴などの学習を行ったことから、子どもたちが中心になって、「高齢者の方に合わせた交流をどうやって行うか」「どのような交流が一緒になって楽しむことができるか」を考え、交流会で行うプログラムを作成した。

【サロンとの交流】

社協から、学校区内で活動しているふれあいいきいきサロン4か所へ声をかけたところ、各サロンから活動日における子どもたちとの交流会の開催について快く了承を得ることができた。

子どもたちは、事前学習で作成したプログラムを基に、歌に合わせた創作体操やじゃんけんゲーム、風船バレーや昔あそび等を地域の高齢者とともに楽しむことができた。
また、ふれあいいきいきサロンで取り組んでいる百歳体操等を経験することができた。



大野小学校4年生ふくし教育（所感等）＜佐世保市社会福祉協議会＞

1、所感

- ・事前学習として実施した高齢者に関する講話や高齢者疑似体験等は、子どもたちが相手の立場を理解しようとする意識を育てるうえで、有意義な導入となった。体験を通じて、日常生活の不便さや工夫の必要性を実感することで、相手への配慮や関わり方について具体的に考える姿が見られた。
- ・交流プログラムの作成は、どのような内容であれば高齢者に楽しんでもらえるか、安心して参加してもらえるかを子どもたち自身が考える過程において、相手の立場に立って物事を捉える姿勢を養うことができた。また、自分たちが企画した内容で交流に臨むことで、活動への意欲や責任感も高まり、積極性が見られた。
- ・サロンとの交流活動を通して、高齢者と直接関わる中で思いやりや相手を尊重する気持ちを自然と育むことができた。また、普段接する機会の少ない世代との交流により、多様な価値観や生活の知恵に触れる貴重な学びの機会となった。一方で、サロン参加者にとっても、子どもたちとの交流は大きな喜びや生きがいにつながっており、地域における相互理解とつながりの重要性を改めて実感した。

2、今後の取り組みについて

- ・段階的な学びを経て交流会へとつなげたことで、表面的な関わりではなく、相手を理解しようとする姿勢に基づいた交流が生まれた点に意義があった。今後も、体験と実践を結び付けたふくし教育の充実を図っていきたい。
- ・今後も学校や地域と連携し、サービスラーニングの視点を取り入れたふくし教育の充実を図っていきたい。子どもたちが学びを実践の場で生かし、その経験を振り返ることで理解を深めていくプロセスを大切にしながら、主体性の育成と地域への関心の醸成につなげていきたい。また、多世代が継続的に関わることのできる仕組みづくりを進め、地域全体で支え合う意識の定着を目指していく。

大野小学校 4年生ふくし教育（リンク）＜佐世保市社会福祉協議会＞
（ふれあいいきいきサロンとの交流）

ふれあいいきいきサロンとの交流

Instagram (https://www.instagram.com/p/DRTj9SmkUyq/?img_index=1)